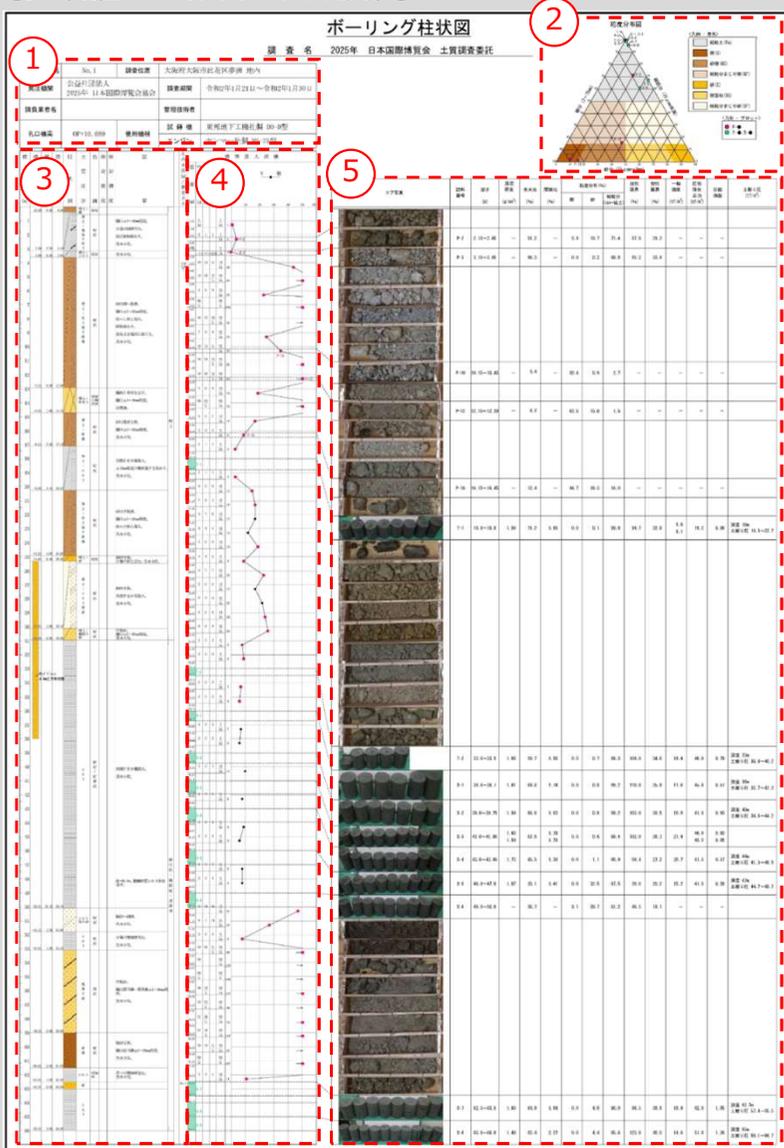


【夢洲地区のボーリングデータ解説資料】



①調査にかかる一般情報

ボーリングナンバー、調査位置（住所）、発注者、調査期間、調査業者名、管理技術者名、孔口標高（レベル）、調査使用機械などを記載。ボーリング位置（経度緯度）はここに記載する場合と、別紙で場所を表示する場合がある。

②粒度分布図、および凡例

ボーリング調査を実施し、それぞれの代表点がどのような粒径の土粒子がどのくらい割合で混合されているのかを分布図として表現。T,S,Pなどの点は、④の表中と対応。

③ボーリング柱状図-1

現地でのボーリング調査の結果を示すもの。縦軸にボーリングの深さ方向の分布を示し、横軸には、主に以下のような情報が表現されている。

- 標高・層厚・深度：地盤の土質の変化、孔口からの深さ、およびそれぞれの地層の厚さを表現
- 柱状図・土質区分：サンプリングした土砂の土質およびそれらの土質の名称を記載
- 記事：採取された試料をもとに、掘進中の感触や現象などの所感・特徴を、土質区分毎に表現
- 孔内水位：掘削中に最初に確認された（最も浅い）孔内の地下水位を記載

④ボーリング柱状図-2

現場ボーリング試験から得られた標準貫入試験結果 = N値を「打撃回数/貫入量」で表現している。

- 一本打ちの開始深度と完了深度を記載
- 10 cm 貫入毎の打撃回数を累計30 cm まで記載

※N値 = 重さ63.5kg±0.5kgのハンマーを76cm±1cmの高さから自由落下させ、ボーリングロッドの先端に取り付けられた標準貫入試験用サンプラーが30cm 打ち込むのに要する打撃回数。  
地盤の強度の指標になり、N値が大きいほど固く締まった地盤とみなされる。

⑤土質サンプル情報

標準貫入試験では、別に土質サンプルを採取し、その写真や分布、室内試験を行った結果など（粒度、液性・耐性限界、強度などが記載されている）が表現されている。

一般的にはサンプル資料を容器などに保管し、試験報告完了後にクライアントに提示される。

※以上は一般的な構造設計に用いる地盤調査内容となるが、標準貫入試験はJISA1219に定められた試験である。



◆建築・構造設計における地質調査結果の扱い

- ・上記、協会が公開している地盤調査資料については、設計者・施工者へ近隣の結果を示した参考資料だが、構造設計者が必要だと判断すれば、実際の計画敷地内で専門業者が調査を行うこととなるため、構造設計者の判断を仰ぐ必要がある。